

アルジェリア政治・経済月例報告
(2016年3月)

平成28年4月
在アルジェリア日本国大使館

1. 内政

● 改正憲法の公布

6日にブーテフリカ大統領により発布された憲法改正案が、7日、官報に掲載された。この新憲法は、2月7日に当国上下両院により採択されていた。改正前の憲法は、前文と182条の条文から構成されていたが、今回の改正により、条文が218条に増加した。

● シャキーブ・ハリール元エネルギー大臣の帰国

17日、シャキーブ・ハリール元エネルギー大臣が3年ぶりに米国からオランに戻った。2013年にアルジェ検事総長により汚職の罪で国際手配状が発出されていた同大臣は、拘束もされず、空港での出迎えは県知事が行ったことから国内でも様々な論議を呼んだが、19日、ベドゥイ内相は、同人の受け入れは元大臣として通常のもの、と発言して政府として同元大臣を受け入れる方針を示した。

● 小閣議

イン・サラのガスプラントでのテロ攻撃後の20日、ブーテフリカ大統領は小閣議を開催し、「治安・人道・外交の地域が直面する問題に関する指示」を出した。同閣議には、ウーヤヒヤ大統領府官房長、セラル首相、ベライズ大統領顧問、ラマムラ外相、ガイド・サラ国軍参謀総長、メサヘル・マグレブAUアラブ連盟担当大臣等が参加した

2. 外交

● 天野 IAEA 事務局長の来訪

2月29日から3月2日にかけての天野 IAEA 事務局長がアルジェリアに来訪した。同事務局長は、セラル首相、ヘブリ・エネルギー大臣、ベレクシ外務次官、ブディアフ保健・医療改革大臣と会談し、原子力の平和利用や原子力分野における専門家の職業訓練や原子力災害医療分野における IAEA・アルジェリア間の協力関係について協議が行われた。

● 潘基文国連事務総長の来訪

5－7日、潘基文国連事務総長が当国を訪問した。同事務総長は、5日、ティンドフにある西サハラ難民キャンプを訪問し、アブデラジズ・サハラ・アラブ民主共和国大統領、タレブ・オマル・サハラ・アラブ民主共和国首相と会談を行った後、6日にアルジェに来訪し、ブーテフリカ大統領、セラル首相、ラマムラ外相とそれぞれ会談した。同総長は、西サハラ問題の解決のために、同地域の平和及び安定を確立するための外交努力を強化する上で、アルジェリアとともに緊密に活動していきたい旨述べた。また、7日には、外務省外交国際関係研究所（IDRI）で「アルジェリアと国連」のテーマで講演を行った。

● ムアッリム・シリア外相、エロー仏外相の来訪

28－30日にかけて、ラマムラ外相の招待により、シリアのムアッリム外相が当国を訪問し、ブーテフリカ大統領（30日）、セラル首相、ベンサラ国民評議会議長、ウルド・ヘリファ国民議会議長（29日）、ラマムラ外相と会談した。両者は、シリア情勢やテロ撲滅について協議した。また、29日、エロー仏外相が当国を来訪し、同日、ブーテフリカ大統領、セラル首相、ラマムラ外相と会談し、両国関係の他、リビア、マリ、シリア、対テロ協力等について話し合った。なお、エロー仏外相は、当地でムアッリム外相との会談は行わなかったと述べた模様。

3. 治安

● 米国製スティンガー地对空ミサイルの押収

国防省コミュニケによると、軍は10日、エル・ウェッド県中部で危険なテロリスト3人を殺害した他、米国製スティンガー地对空ミサイル6基など多数の武器を押収した。報道によれば、ロシア製 MANPADS ではなく本当にスティンガーと確認されたのならば、今回初めてアルジェリアのテロリストからスティンガーが押収されたことになる由。但し、今回の軍発表には疑問の声もある。

● イン・サラのガスプラントに対するテロ攻撃

18日早朝、タマンラセット県北部イン・サラ地区クライシュヴァに所在のガス開発サイトに対してロケット弾によるテロ襲撃が発生、複数の砲弾が施設内に着弾したが、建物の被害はあったものの、人的被害は発生しなかった。19日、イスラム・マグレブ諸国のアル・カーイダ（AQIM）が犯行声明をネット上に掲載し、今回の攻撃はアルジェリア政府と外国企業を標的としたものだとし、今後も自らの資源を搾取する外国企業を標的とすることを宣言した。一部報道によれば、軍はその後、実行犯4人を殺害し、3人を拘束した由であ

るが、政府からの発表はない。

● 自爆テロ犯の殺害

報道によれば、23日、ティジ・ウズ県南西部マアトカス地区の中心部（県庁所在地ティジ・ウズ地区の南約30キロ）において、自爆ベルトを身に着けたテロリスト1人が地区警察署に向けて歩行したが、警察署から100メートルほどの地点で警察官の発砲を受け、死亡した。同地域では治安機関を狙ったテロはこの5年近く発生していなかった（2011年8月14日、ティジ・ウズ地区中心部の警察署に爆弾を積載した車両が突入した自爆テロがあった）。

4. 経済

● セラル首相の対外借入再開に関する発言

2日、セラル首相は、2016年春期国会の開会式に出席した。同開会式において、セラル首相は、対外借入に関して否定的な見解を示し、国や国営企業が対外借入を行う事を避けるために、政府は既に必要な措置を設けていると発言した。同首相は、現在原油価格が1バレル30ドルから35ドルの間で揺れ動いており、右価格は予算編成の際の1バレル37ドルの想定価格を下回っているということを承知しつつ、本年4月には2016年—2019年の新たな経済モデルについて発表すると述べた。また同首相は、公共投資に係わる資金調達には利率5%の国債を発行すると述べ、アルジェリアは現在の経済危機に対処することができると保証した。

● ドーファンIMF中東・アジア局代表の来訪

15日、ドーファンIMF中東・アジア局代表は、15日間の当地滞在を終え、記者会見を行った。同記者会見において、同代表は、原油価格下落による歳入の激減から、アルジェリアの対外借入再開は不可避であり、同時に望ましいことであると述べ、またアルジェリア政府が2016年予算法において支出の合理化及び助成金制度の改革を盛り込んだ点を評価しつつも、大規模な構造改革による財政健全化を継続して行うよう呼びかけた。同代表は、原油価格下落が長期化する可能性を指摘しつつ、原油価格の下落が経済成長率に与える影響は限定的であるが、財政に与える影響は甚大であり、財政赤字はGDPの16%に達していると述べた。更に、国債発行による資金調達では不十分であり、更に海外投資を妨げる可能性があるとして述べ、国債のみならず対外借入再開と一部国営企業の民営化が必要であると指摘した。輸入ライセンス等の輸入規制に関し、ドーファン代表は、右規制は一時的な効果しか得ることができず、輸出を刺激するような改革とはなっていないと述べた。

● クライシュヴァでのテロ攻撃事件に関するソナトラック社の発表

22日、国営炭化水素公社ソナトラック社は、18日にイン・サラール近郊クライシュヴァのガスプラントがテロ攻撃を受けた件に関し、ソナトラック社としては今後も人員をサイトに残し、ガス開発を継続していくと発表した。消息筋によると、同プラントに作業員を駐在させていたブリティッシュ・ペトロリウム（BP）社とスタットオイル社は、今回の襲撃を受け、今後数日中に人員を一時的に撤退させる可能性が高いとのこと。

5. 我が国との関係

● 草の根・人間の安全保障無償資金協力調印式開催

16日、在アルジェリア日本国大使館にて、草の根・人間の安全保障無償資金協力の調印式が開催された。被供与団体であるガルダイヤ県のタゲミ（TAGEMI）は、日本国から供与された60,694ユーロで手術用顕微鏡等の医療機器を購入する。同調印式に出席した藤原駐アルジェリア日本国大使は、人間の安全保障分野は優先分野であり、今後も同分野でアルジェリアに協力していきたいと述べ、またベンユセフ・タゲミ代表は、日本の協力を感謝しつつ、今後も南部の医療事情の改善に貢献していくと述べた。

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月1日	スイス	ラマムラ外務大臣	第31回国連人権委員会に出席
3月2日	トルコ	ヌーバ憲兵隊司令官	トルコ憲兵隊訪問等
3月6日	インドネシア	ウルド・ヘリファ国民議会議長	第5回イスラム協議会臨時会合に出席
3月9日	オランダ	ラマムラ外務大臣	第2回アルジェリア・オランダ経済協力委員会に出席
3月9日	エジプト	メサヘル・マグレブ・AU・アラブ連盟担当大臣	第145回アラブ連盟閣僚会合に出席
3月21日	チュニジア	メサヘル・マグレブ・	第8回リビア近隣

		AU・アラブ連盟担当大臣	諸国会合、コブラー 国連リビア問題担 当特使他と会談等
3月29日	エジプト	ベドゥイ内務大臣	アル・シーシ大統領 と会談等
3月31日	アメリカ	セラル首相	核セキュリティー サミットに出席

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月1日	アンゴラ	ピント・シコティ対外関 係大臣	ブーテフリカ大統 領、ラマムラ外務大 臣と会談等
3月6日	国連	潘事務総長	ブーテフリカ大統 領、セラル首相、ラ マムラ外務大臣と 会談等（西サハラ問 題）
3月6日	チャド	アバ・サラ法務大臣	ルー法務・国璽大臣 と会談等
3月8日	リビア	マイティク第一副大統 領	メサヘル・マグレ ブ・AU・アラブ連 盟担当大臣会談等
3月8日	スロベニア	ロヴレニッチ外務次官 補	第二回政務協議に 出席等
3月13日	国際オリンピ ック委員会	バッハ委員長	セラル首相と会談 等
3月15日	AU	ダン汎アフリカ委員会 委員長	ウルド・ヘリファ国 民議会議長と会談 等
3月20日	エクアドル	ヘララ財務大臣	ベンハルファ財務 大臣と会談等
3月24日	フランス	ル・フォル農業大臣	セラル首相、フェル ーキ農業・地方開 発・漁業大臣と会談 等

3月24日	イタリア	アメンドラ外務次官補	ラマムラ外務大臣 と会談等
3月25日	チュニジア	メジュブ内務大臣	ベドゥイ内務大臣 と会談等
3月27日	西サハラ	タレブ・オマル首相	セラル首相、ガイ ド・サラ国軍参謀総 長と会談
3月28日	シリア	アル・ムアッリム副首相 兼外務大臣	ブーテフリカ大統 領、セラル首相、ラ マムラ外務大臣と 会談等
3月28日	フランス	エロー外務大臣	ブーテフリカ大統 領、セラル首相、ラ マムラ外務大臣と 会談等

(了)